

障害児とともに

和多美知子

(新見女子短期大学)

I. 研究目的

保育園という場を通して、昭和26年以来、子どもとともに生活してきた中で、昭和30年後半から「遊べない子ども」「低体温の子ども」…というように、気にかかる子どもの姿が見られるようになり、昭和40年代後半からは、新入児の中に、「成人病をもった子ども」「自閉症または自閉傾向の子ども」「歩けない子ども」…などが、毎年に、入園または入園を希望して相談にくる姿が目立つようになり、障害をもつ子どもとの深いかかわりの中で、個々の子どもにあった保育方法を探り続けて今日を迎えている。

また、大学に籍をおき、学生の保育実習指導を通して、岡山県下の保育園全園（県北から県南までの広範囲に）に「問題行動児」または「障害児」が、かなり在籍していることを知り、岡山県下の現状を明らかにすることの必要を感じ、研究に取り組んできた。

II. 研究方法

1. 岡山県下の公私立認可保育園全園に葉書により、障害児在籍状況（人数・性別・年齢・病名・障害児手帳の有無）について、無記名によるアンケートと依頼し、調査・検討を加える。

1) 1990年6月……対象保育園 413園にアンケートを依頼

2) 1994年6月……対象保育園 405園にアンケートを依頼

2. 昭和30年代後半から「問題行動児」や「障害児」には障害児傾向の子どもも受入れ、共に健常児と生活する中で、観察・研究を進める。

III. 研究結果

1. アンケート調査結果より

1) 1990年6月調査で、葉書での依頼発送園 413園中、回答を得たのは269園で回収率約65%、その中、161園に「障害児」または「問題行動児」が352名いるとの回答結果が見られた。

男女別にみると、352名中、男子246名（約70%）女子106名（約30%）で、男子の方が女子の2倍強という現実にあい、偶然なのか、または男子に出現率が高い傾向があるのかなどの疑問が残った。

また、352名中、障害児手帳をもっている子どもが47名いた。

2) 1994年6月調査で、葉書での依頼発送園は、405園、その中で回答を得たのは183園で回収率45%、しかも、183園中「障害」または「障害児らしい」子どもがいるという回答園は、83園で、子ども数は173名であった。

その中、男子99名（約57%）女子74名（約43%）である。

そして、障害手帳をもっている子どもは25名であった。

3) 1994年6月調査では、同時に「アトピー性皮膚炎」の子どもの在籍状況についても回答をお願いしたところ、回答園183園中、150園（約82%）に、アトピー性皮膚炎の子どもが在籍しており、その数、599名という驚くべき結果が見られた。

以上の調査結果の詳細は次の表の通りである。

障害の種類	1990年		1994年	
(園記載の通り例記)	人数	手帳有無	人数	手帳有無
精神発達遅滞	86名	22名	56名	5名
自閉症及び自閉傾向	60	2	39	6
言語障害	1		14	2
歩行障害			11	4
ダウン症候群			6	5
脳性まひ	1		4	2
聴覚障害	5		4	1
多動	9		4	
喘息			3	
斜視			3	
情緒障害	6		2	
口蓋裂			2	
視覚障害・運動障害			2	
ク・言語障害			2	
肢体障害及び不自由	33	13	1	
どもり・チック	29		1	
てんかん	22	10	1	
身体的発達の遅れ	19			
水頭症	4			
極度の肥満	2			

・理解力がある	2			
・先天性右手第3指欠損			/	
・上肢障害			/	
・内臓の障害			/	
・手先の障害			/	
・右半身のみ境界線知能			/	
・二分脊椎症	/		/	
・変性性肺高血圧症(肺動脈) による心臓機能障害			/	
・色素性脱皮症			/	
・母子分離不安			/	
・ウェスト症候群	/		/	
・プラダウイリ症候群	/		/	
・猫泣き症候群			/	
・橋山型ジストロフィー 境界線知能			/	
・X脚			/	
・脊椎破裂による下位麻痺			/	
・視覚障害、歩行障害 精神障害、自閉症			/	
・髄膜炎後遺症			/	
・内臓浮腫、右胸心臓に空 肺高血圧症			/	
・メチウス症候群ポラキチ	/			
・対人コミュニケーション障害	/			
・川崎病後合併症	/			
・集中力なく/人行動が多い	/			
・自傷行為	/			
・心臓病	/			
・両血管右心起動の計測困難	/			
・けいれん	/			
・右下肢のみ	/			
・右手第1関節の先が短い	/			
・三尖弁閉鎖症	/			
・先天性心疾患	/			
・停留嚥丸	/			
・肛門奇形	/			
・左目義眼	/			
・髄膜炎後遺症の左半身のみ	/			
・超未熟児で生れ視力 障害、水頭症	/			
・小頭症	/			
・両側感音性難聴	/			
・排泄の意志が不十分	/			
・同じ行動の繰り返し	/			
・筋肉がかたい	/			
・その他	48			
計	352名	47名	173名	25名

アトピー性皮膚炎の保育園在籍園児数

(1994年6月調査)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	年齢計
岡山県内全園	2名	139	121	112	79	51	20	75

上記のように、1990年・1994年ともに、「障害」または「問題行動」をもった子どもが、岡山県下保育園全般に亘って在籍している現状がつかめたと同時に障害の種類が多いことにも驚いた。そして、一人ひとりに適したきめ細かい対応のむづかしさをもあらためて知ることが出来た。

2. 次に、私自身がおの園で、昭和30年代後半から障害または障害傾向の子どもや問題行動の子どもと日々取り組み成果が見られた結果について報告する。

取り組みについての大切なポイント

- (1) 「障害児」「問題行動児」という言葉と頭から取り消す(どの子も同じ)……(保育者および母親から)
- (2) 健康で明るい同年代以上の子どもと常に並ばせる(保育者が補助しながら、楽しさの中で同じようにしたいという憧れをもたせていく)
- (3) (2)の行動は、出来る限り户外で、全身および手足の末端まで十分使うおよび取り入れて(汗をしっかりと流して新陳代謝を旺盛にするように)
- (4) 薄着または、裸と裸足で、指先の末端までがよく動かせるように心がけ、汗の発散も十分に出来ること。
- (5) 服、靴、すべて身につけるものは綿・麻・絹などに換える。(植物や動物から作ったものを)
- (6) 保育者は、あくことなく、根気強く、粘ること。そして、子どもと共に、日々、1万歩以上、歩いたり走ったりを繰り返していく。(身体全体の血液の流水がよくなり、骨や筋肉が強くなり身体から固さが消えて柔軟な動きが、徐々に身体の中から末端へと表われてくる)……など多くの教訓を子どもから得た。

Ⅱ. 結論

アンケート結果から、岡山県下の保育園にも数多くの「障害」をもった子ども達が在籍していることを知った。私自身も「自閉症」「先天性結核」「腎臓病」など診断されたり、「全く歩けない」という子どもと共に生活しながら、その子ども達が自分の障害を克服して、健康児となり、明るい笑顔を小学校へと巣立つ時の喜びをかみしめている。この研究を通して保育者たるものは、微かな動きも見逃さない磨き登りました目と微かな発語も聞き逃さない耳と子どもの身体の固さがほぐれる僅かな感觸を見逃さない触診のできる指先をもつ「すぐれた職人」でなければならないことを知った。この研究は先のない研究である。